体育専門学群

授業科目名	ハンドボール
科目番号	W940915 / W940935 / W940945
単位数	1単位
標準履修年次	1年次女子クラス / 2年次男子後半クラス / 1年次男子前半クラス
時間割	春AB 木4-5 / 秋AB 木4-5 / 秋AB 火1-2
担当教員	藤本 元 / 中山 紗織 / 會田 宏
授業概要	ハンドボールの競技特性および教育特性を理解するとともに，ゲームを中心とした実習の中で，基礎的な技術・戦術力を習得し，それらの指導法を学修する。
授業形態	実技
授業の到達目標	基礎的な技術力および戦術力をゲームの中で発揮できる。初級レベルを対象とした指導ができる。
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 コートプレーヤーの基礎技術(ボールハンドリング，パス，シュート) 第 3 回 ゴールキーパーの基礎技術(ポジショニング，セービング) 第 4 回 コートプレーヤーの基礎技術(パスバリエーション，シュートバリエーション)，ルールを簡易化した少人数のシュートゲーム 第 5 回 コートプレーヤーの基礎技術(フェイントバリエーション) 第 6 回 ルールを簡易化した少人数のゲーム 第 7 回 コートプレーヤーの基礎技術(ドリブルスティール，パススティール，マンツーマン防御技術) 第 8 回 マンツーマン防御を用いた少人数のゲーム 第 9 回 指導のための基礎理論とルールの学習 第 10 回 審判法 第 11 回 攻撃のグループ戦術(ピストン動作) 第 12 回 防御のグループ戦術(ゾーン防御)，ゾーン防御を用いた少人数のゲーム 第 13 回 攻撃のグループ戦術(パラレルプレー，クロスプレー) 第 14 回 ゾーン防御を用いたゲーム 第 15 回 攻撃と防御のチーム戦術(オープン防御システム，ポストとのコンビネーションプレー) 第 16 回 オープン防御システムを用いたゲーム 第 17 回 攻撃と防御のチーム戦術(クローズ防御システム，ポストプレーとのコンビネーションプレーのバリエーション) 第 18 回 クローズ防御システムを用いたゲーム 第 19 回 ゲーム 第 20 回 まとめ
履修条件	原則として体育専門学群の学生のみ受講可
成績評価方法	受講態度，ルールのテストおよびスキルテスト，ゲームパフォーマンスなどを総合的に評価する。
授業外の学修方法	ルールの理解のための資料熟読や映像観察を適宜指示する。
教材・参考文献等	『Playing handball: A comprehensive study of the game』 Marczinka, Z., Trio Budapest Kiadó, 2016
キーワード	基礎技術，グループ戦術，チーム戦術，ゲーム

体育専門学群

授業科目名	ハンドボールコーチング論演習 I
科目番号	W181322
単位数	2単位
標準履修年次	3年次
時間割	春AB 木2-3
担当教員	會田 宏, 藤本 元
授業概要	ハンドボールのコーチングに関する文献を精読し, 合理的なコーチングおよびトレーニングに必要な理論について学習する。授業におけるプレゼンテーションとグループ討論を通して学修内容に関する理解を深める。
授業形態	演習
授業の到達目標	ハンドボールコーチング論における研究課題, 研究手段について説明することができる。
授業計画	第 1 回 ハンドボール競技の歴史 第 2 回 コーチングフィロソフィー 第 3 回 競技力の構造 第 4 回 ゲームの局面構造 第 5 回 アタックにおける技術と戦術の構造 第 6 回 ディフェンスにおける技術と戦術の構造 第 7 回 技術・戦術の発達 第 8 回 ルールの変更と技術・戦術の発達との関係 第 9 回 個人戦術力(技術力と戦術的思考力)の構造 第 10 回 グループ戦術とチーム戦術の構造 第 11 回 チームマネージメント 第 12 回 ゲームプランとトレーニングプランの作成 第 13 回 トレーニング内容と方法 第 14 回 (1) セットアタックにおける技術力と戦術力の養成 第 15 回 (2) セットディフェンスにおける技術力と戦術力の養成 第 16 回 (3) 速攻における技術力と戦術力の養成 第 17 回 (4) リトリートディフェンスにおける技術力と戦術力の養成 第 18 回 ゲームパフォーマンスの分析と評価 第 19 回 競技レベルおよび年齢に応じたコーチングと一貫指導 第 20 回 まとめ
履修条件	ハンドボールコーチング論領域で卒業論文を作成する学生
成績評価方法	授業におけるプレゼンテーション(50%), グループ討論(30%), レポート(20%)で評価する。
授業外の学修方法	毎回の授業前に, 関連する文献や資料等を読み, まとめること。授業後に学修範囲を復習し, コーチング実践に応用できるよう理解を深めること。
教材・参考文献等	『球技のコーチング学』日本コーチング学会(編), 大修館書店, 2019 『Playing handball: A comprehensive study of the game』Marczinka, Z., Trio Budapest Kiadó, 2016 『ボールゲーム指導事典』シュテーラーほか(唐木國彦 監訳), 大修館書店, 1993
キーワード	技術, 戦術, 体力, 心的・知的能力, トレーニング

体育専門学群

授業科目名	ハンドボールコーチング論演習Ⅱ
科目番号	W181332
単位数	2単位
標準履修年次	3年次
時間割	秋AB 水3, 金1
担当教員	會田 宏, 藤本 元, 中山 紗織
授業概要	コーチングおよびトレーニングの場において解決すべき問題を科学的に分析・検討する方法, 得られた知見を発表する方法について学習する。授業におけるプレゼンテーションとグループ討論を通して学修内容に関する理解を深める。授業の前半はハンドボールコーチング論領域における研究方法について学習し, 後半は論文作成の基礎について学習する。
授業形態	演習
授業の到達目標	ハンドボールコーチング論の領域において, 各自の興味や関心に応じた研究課題を設定することができる。また, 科学的知見を導く方法について説明することができる。
授業計画	第 1 回 ハンドボールのコーチングと科学的分析 第 2 回 各種研究法において明らかにできる知 第 3 回 (1) 量的研究と質的研究 第 4 回 (2) アンケート調査 第 5 回 (3) インタビュー調査 第 6 回 (4) ラボラトリーテスト 第 7 回 (5) フィールドテスト 第 8 回 (6) ゲームパフォーマンスの分析 第 9 回 統計処理の方法 第 10 回 研究法に関するまとめ 第 11 回 先行研究の精読と研究課題の設定 第 12 回 研究デザインの作成 第 13 回 研究デザインの検討 第 14 回 データの収集 第 15 回 データの分析 第 16 回 データの解釈 第 17 回 グループ討論 第 18 回 研究成果のまとめ 第 19 回 研究成果の発表 第 20 回 実践現場への提言
履修条件	ハンドボールコーチング論領域で卒業論文を作成する学生
成績評価方法	授業におけるプレゼンテーション(50%), グループ討論(30%), レポート(20%)で評価する。
授業外の学修方法	先行研究の収集, 要約
教材・参考文献等	授業時間内で示す。
キーワード	質的研究, 量的研究, インタビュー調査, 記述的ゲームパフォーマンス分析

体育専門学群

授業科目名	ハンドボールコーチング論演習Ⅲ
科目番号	W181342
単位数	2単位
標準履修年次	4年次
時間割	応談
担当教員	會田 宏, 藤本 元, 山田 永子, 中山 紗織
授業概要	ハンドボールコーチング論領域における卒業論文の作成に必要な知識と技能を養成する。各自が設定した研究テーマに関連する先行研究の要約発表とグループ討論, 研究成果の中間発表とグループ討論を行う。
授業形態	演習
授業の到達目標	ハンドボールにおけるコーチングの現場で起っている現象を科学的に捉え,論文という形式で表現することができる。
授業計画	第 1 回 コーチングに関する研究に臨む態度 第 2 回 研究において明らかにするべき知 第 3 回 研究テーマに関連する先行研究で明らかにしている知 第 4 回 研究デザインの作成 第 5 回 研究デザインの検討 第 6 回 データの収集と倫理的問題への対応 第 7 回 データの分析 第 8 回 データの考察 第 9 回 研究成果の発表 第 10 回 研究成果に関するグループ討論
履修条件	ハンドボールコーチング論領域で卒業論文を作成する学生
成績評価方法	先行研究の要約発表(50%), グループ討論(30%), 卒業論文への取り組みの積極性(20%)で評価する。
授業外の学修方法	研究テーマに関連する先行研究の収集, 要約
教材・参考文献等	授業時間内で示す。
キーワード	研究発表, 文章作成, 研究倫理